

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200106		
法人名	有限会社ケイ・エム・コーポレーション		
事業所名	ランの郷		
所在地	静岡県静岡市清水区承元寺町222番地		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 2 年 12 月 27 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

全ての入居者が心地よい場所と思ってもらえるよう心がけています。環境の良い土地の為、それを取り巻く環境が入居者に安心感を与えることでしよう。誰もが、最初は緊張しながらこの施設を訪れることと思います。でも、玄関に入った途端(ホットする)雰囲気があると思います。この環境と、人材の資源を大切にしていきたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

古民家を改装した1ユニットであることから、家族的な雰囲気を大切にして、利用者の思いや意向に沿った支援を心掛けている。市街地から離れている環境から自然豊かな地域にあり、近隣の散歩や施設の庭で、季節ごとの草木の変化を楽しむことができる。コロナ禍の中では地域との関わりは難しいが、公民館活動のふれあい事業に参加したり、地域ボランティアの定期訪問などのつながりを大切にしている。法人本部のバックアップを受けながら、地域に密着した施設運営を心掛けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に介護に関して向上心を持ってもらう様、月に一度のミーティング時などで実践につなげるよう心がけています。	理念は玄関に掲示し、月例ミーティングにより確認している。管理者やケアマネジャーは、連絡帳や月例ミーティングを活用して職員との情報共有を図るとともに、職員個々の課題等については、都度、声掛けを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時、地域の方々といさつや会話が、徐々に交流が確立されつつあります。現在は、コロナで交流されていない。	コロナ禍の中、地域との交流は困難な状況ではあるが、平時は散歩時でのふれあい、月1回の地元公民館主催の「ふれあい事業」への参加、地域ボランティア「あいあいクラブ」の訪問等で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に施設は、オープンにしている。見学もすることもできます。質問があれば、相談にも応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回(2ヶ月に1回)議題を決めて意見交換をおこなっている。施設での活動報告や、気になった事等のアドバイスをいただいている。	2か月に1回開催され、今年度4、6月は地域包括支援センター職員、自治会代表、家族の出席のもと開催されていたが、10月、12月は書面での開催となっている。地域包括支援センター職員から、コロナ感染防止対策についての助言を受けて、職員との情報の共有を図っている。	運営推進会議は、関係する多様な人達からの意見を聞く場でもあることから、不参加の家族や職員の参加を積極的に働きかけることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には、運営推進会議での交流になる。施設の取り組みや考えを伝えている。	運営推進会議の議事録の報告など、機会があるごとに行政窓口との連携を図り、必要な情報は月例ミーティングにて職員との共有を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、全体会議でマニュアルを使って勉強会を行いました。今は、職員全体が周知しています。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議の後開催され、毎回テーマを決めて、身体拘束に関する情報を職員と共有している。	身体拘束適正化委員会の運営で定められた「委員会名簿」「年2回の職員研修計画」の整備を進めて欲しい。

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解しており、虐待に関して研修を受けたものが、他職員に学んだことを伝え、常に意識づけするように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、成年後見者制度を活用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様のご家族と時間をとっていただき、十分な説明を行い理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で対応させていただいています。意見や要望があれば、理解されるまで対応させていただいています。	コロナ禍の中、家族との面会を制限しているが、管理者は、オンラインによる利用者と家族との面会や、電話にて都度連絡するなど、家族からの意見の吸い上げに努めている。	コロナ禍の中、家族からの情報が希薄になるのは仕方ないことではあるが、この機を利用して事業所から家族に向けて意見を伺う「家族アンケート」の実施など、積極的な働きかけに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議、及び引継時原則口頭で伝えている。申し送りノートも活用しています。	職員からの意見は、管理者は都度吸い上げられるように注意を図り、職員全体で共有すべき情報は月例ミーティングで取り上げている。年1回法人本部による個人面談を行い、職員の意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話を聞くようにしている。職員個々の努力や、実績、勤務状況を把握して、労働時間を決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の、出張介護を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に、特別養護老人施設があり、ケアマネ等の情報交換や訪問などを常に行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後でも本人の望む生活、不安、悩みなどに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望は、電話で対応している。遠方の方とは、TV電話で対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に意見を聞いて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とは、何でも話せる関係になれる様心がけており、手伝っていただけるとありがたいをお願いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族は、面会は少ない。何か変化があれば家族に連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がある場合は、面会はオープンにしている。	出掛けることが困難となってきている状況の中、加えてコロナ感染の影響で外出が難しい状況であるが、平時は、地域ボランティアの訪問、兄弟・家族の訪問や2月に1回の訪問理美容利用時などの場を活用し、馴染みの人との交流を図っている。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間にはいり、話題の提供、歌や楽しいことを一緒に関わられるようにきっかけ作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し、解らないことがあれば相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に、希望、意向は把握している。	入居時のアセスメントシート「ご入居相談受付簿」にて利用者・家族の情報が整理されており、これを基に、日々の生活の中から利用者の行動や意向の変化の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活とかけ離れないような生活・環境にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合わせ、個々が必要とする必要性を常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回介護計画とモニタリングで利用者一人一人の状況を把握し、介護計画に反映させる。	利用者一人ひとりに対し、月例ミーティングにてモニタリングを行い、管理者とケアマネジャーは職員からの意見を吸い上げながら、介護計画に反映することを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個人ノートを記入し申し送りする。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個人対応を心がけ取り組んでいる。御家族とも話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回りの環境に恵まれている。自然を感じながら生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診をお願いしている。	協力医は、かかりつけ医として、薬剤師同伴のうえ月1回往診がある。利用者の身体状況に関する情報は、週1回の訪問看護師の健康管理情報とともに、職員が共有している。提携歯科医は、3か月に1回定期的に訪問診療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることをその都度報告し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、面会に行っている。病院関係者には、個人の情報を提供し、病院での様子を伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は入居時に説明している。	重度化や終末期に向けての事業所の対応は、利用者・家族に入居時に説明を行い、同意書を得ている。訪問看護師との連携のもと、健康に関する情報を共有しながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設でできる事は限られている。その時に慌てないためにも、日ごろから早め早めの対応をし、記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期検査の時に、防災訓練を行っている。	災害備蓄品は5日間分を目途に、本部対応にて備蓄管理されている。防災訓練は、設備の定期点検の際に火災想定で行われているが、訓練の実施記録は整備されていない。	防災訓練は、安全な生活を送るうえで重要であり、年2回の訓練はそれぞれテーマを決めて実施し、訓練後の課題や問題点を整理して記録することで、課題の解決に結びつけることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、他の利用者が聞いているかもと頭に入れて言葉を選んでいる。	利用者の尊厳やプライバシーの確保に対し、職員の行動に課題が散見された場合、管理者は都度注意を行い、必要な場合は月例ミーティングで取り上げて、職員全員の情報共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話しやすいような雰囲気を作るようにしている。個人の性格を考え、その人らしく生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人それぞれ考え、思い気分もあり無理強いすることはしない。時間を置いたり、職員を代えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理美容をお願いしている。本人の気に入っている洋服を、基本的には来ていただいている。汚れたら着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回温かいものを提供しています。	食材は宅配業者を利用し、事業所の厨房で調理を行っている。誕生日のおやつのは、ケーキを用意して楽しんでいる。献立について、利用者や家族への月間メニューなどのお知らせがない。	食事は利用者にとって重要な楽しみであることから、月間献立のお知らせや、利用者が食べたいものの要望の受け入れの仕方について、工夫を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量、飲み込が悪い方にはトロミ食やミキサー食を作っている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。本人が、出来ないときは職員が介助している。 歯科医が3か月に1回訪問、ケアをしてきている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記入している。 時間でトイレ誘導をしている。	「排泄チェックシート」を利用しながら、先回りのトイレ誘導に努め、昼間は自立して排泄が行われることを目標に、支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師からの薬の処方と水分摂取や運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を行っている。	基本的に週3回、午前中に入浴を行い、シャワー浴、足湯等、利用者の体調に合わせて、工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い時には、順番で寝具を洗濯、干したりしている。体力のない方には、2時間居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きなこと、嫌いなことを理解し、レクレーションを考えている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族に沿うように協力しています。	コロナ禍の中、遠方への外出は困難な状況ではあるが、体調をみながら近隣への散歩や敷地内の庭での外気浴等を行い、日に当たり、草木の観察で季節を感じるができるような外出の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設ではお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話はつないで会話を楽しんでいる。贈り物が届くと必ずお礼の電話をかけ会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員が、清掃している。消毒も毎日行っている。	古民家を改装した事業所は、昔ながらの自宅に在る雰囲気大切にしている。職員がこまめに掃除を行い、清潔が保持されている。また、新型コロナウイルス感染防止の対応として、こまめな換気・消毒を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに自席がある。自室で休んだり、リビングに座ったり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であるが自分で生活できない人のために分かりやすく整理整頓をしている。	利用者の好みに合わせて、畳ベッドの持ち込みや使い慣れた家具の配置により、居心地のよい部屋づくりの工夫に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルでわかりやすく安全面でも転倒がないように動きやすいスペースを作っていく。		

## 目標達成計画

作成日:令和 3 年 4 月 28 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に不参加の家族が多く、参加を積極的に働きかけたい	1家族だけでなく、多くの家族に参加していただく。施設に向いていただく事	ランの郷だよりを作る月1回 催し物(誕生日会・一人一人の写真)	3ヶ月
2	6	身体拘束適正化委員会の運営で定められたように開催していない	3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催する事	月1回のミーティングの後に開催する委員会名簿は作りました。 資料を調べる。議事録をしっかりと書く	3ヶ月
3	10	家族との面会を制限しているが電話にて連絡するなどしている。	事業所から家族に向けて意見を伺う	ランの郷だよりに「家族アンケート」を入れるようにする	3ヶ月
4	35	防災訓練、年2回の訓練はそれぞれテーマを決めて実施していない	職員が新しくなっているのでテーマを決めて実施したい	防災訓練を実施する(6月) 問題点を整理して記録する	3ヶ月
5	40	食事を楽しむことのできる支援が出来ていない	家族と一緒に施設で食事をする事	コロナが終わったら家族と一緒に食事会を開く	9ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。